

熊本駅一帯「まとまり重視」

熊本市 建築家らデザイン語る

JR熊本駅を中心とした都市空間デザインのトークセミナーが29日、熊本市西区のメトロ書店熊本本店内「カフェVERDE」であった。携わった大学院教授ら3人がデザイン画などを紹介し、親水施設や植栽を生かした「パークステーション」をコンセプトに進めた経緯などを話した。

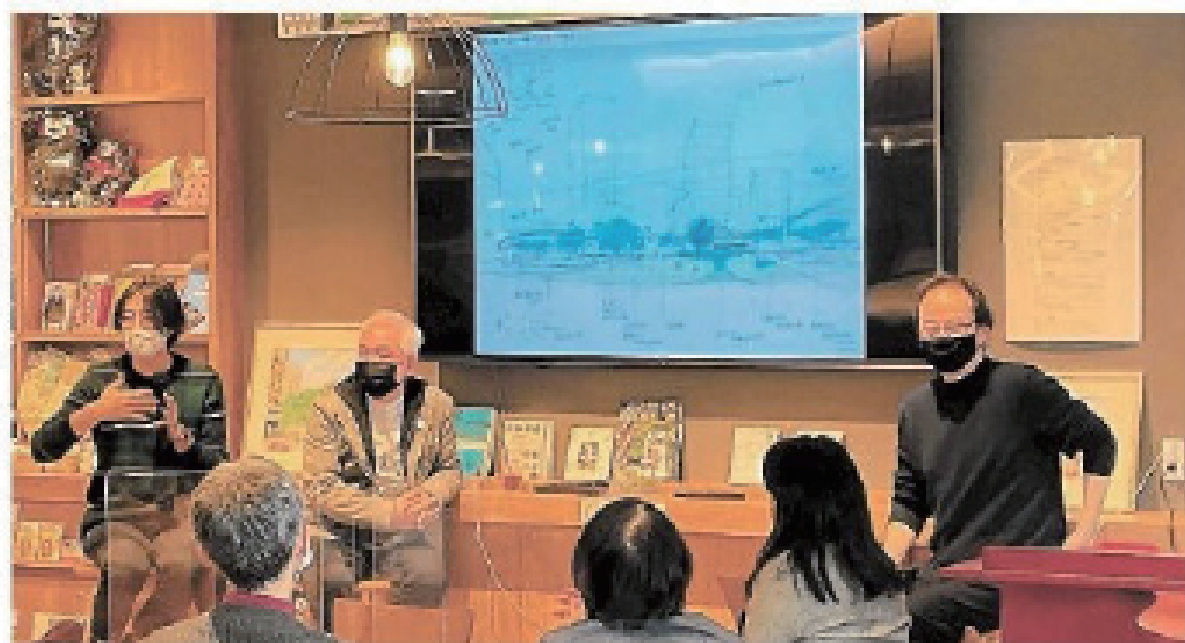
建築などの本に触れてもらおうと同書店が企画。建築関係者や学生ら35人が聴いた。

一帯の開発に16年間関わる建築家で、熊本大大学院先端科学研究部の田中智之教授(51)は、木立の中に停車する電車や、緑と青空が広がる駅前広場などのデザイン画を披露。完成予想図として固めすぎず、実際の

駅ビル建設などに合わせて照明や時計のモニュメントなどを柔軟に決めた過程を説明し、「全体のまとまりをどうつくるかを重視した」と述べた。

崇城大芸術学部デザイン学科の原田和典教授(56)は「なるべく無駄なものをなくし、必要なものを取り入れた」。熊大くまもと水循環・減災研究教育センターの星野裕司准教授(51)は、「イベントなどを通してデザインの魅力を知ってほしい」と呼びかけた。

(古東竜之介)



JR熊本駅エリアのデザインに携わった県内の大学院教授らが出演したトークセミナー

熊本市西区